東京外国語大学『語学研究所論集』第 21 号（2016.3）, 91-100

情報構造：ハンガリー語[1]

大島 一

1. コンサルタント情報

ハンガリー語対応例文の作例は大島が，それをハンガリー語話者コンサルタントに確認した上で記載した．以下，コンサルタントの情報である．

氏名：BILIK Éva（ビリク・エーヴァ）[2]
性別：女性
生年月日：1971 年 3 月 13 日
出身地：ハンガリー，ブダペスト（Hungary, Budapest）
母語：ハンガリー語ブダペスト方言

2. ハンガリー語の主題（トピック）・評言（コメント）構造とその語順

ハンガリー語の語順であるが，情報構造の観点から，文頭に主題（トピック），その後に評言（コメント）が続く．É. Kiss (1981)は「ヤーノシュはマリを愛する」という他動詞文において，以下に見るような意味解釈がありうると説明する．主題（トピック）のあとにはイントネーションの区切れ目「｜」が置かれ，その後ろが評言（コメント）部である．動詞項の直前には焦点（フォーカス．以下ではスモールキャピタルで表示）が配置される．このように，ハンガリー語は情報構造を語順にて表現する言語であると言える．

(イ) szeret-i　János-ϕ　Mari-t
愛する-3SG.DEF　ヤーノシュ-NOM　マリ-ACC

	主題	｜	焦点	動詞項		
a.		｜		Szereti	Marit	János.
		｜		Szereti	János	Marit.
				「ヤーノシュはマリを愛している」		
b.		｜	JÁNOS	szereti	Marit.	

[1] ハンガリー語は中央ヨーロッパのハンガリーおよび周辺国で話されている言語（ウラル語族フィン・ウゴル語派に属する）であり，話者数は約 1,300 万人である．その言語的特徴は膠着語，後置詞言語であり，豊富な動詞活用を持つ．特に，他動詞における対格目的語が定まったものかそうでないかにより活用が変わる不定／定活用（例文グロスでは (ϕ)/DEF）はハンガリー語の大きな特徴の一つである．
[2] ハンガリー語は日本語と同じく，「姓・名」の順番で表記する．

「マリを愛しているのはヤーノシュである」

| MARIT szereti János.

「ヤーノシュが愛しているのはマリである」

c. János | szereti Marit.

「ヤーノシュといえば，彼はマリを愛している」

Marit | szereti János.

「マリといえば，ヤーノシュが愛している」

d. János | MARIT szereti.

「ヤーノシュといえば，彼が愛しているのはマリである」

Marit | JÁNOS szereti.

「マリといえば，彼女を愛しているのはヤーノシュである」

e. János Marit | szereti.

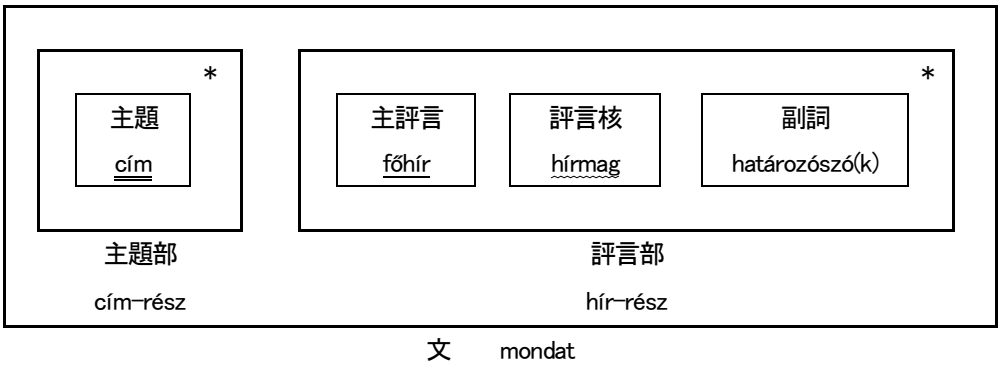
「ヤーノシュとマリといえば，彼は彼女を愛している」

Marit János | szereti

「マリとヤーノシュといえば，彼は彼女を愛している」

ハンガリー語の語順の研究では，他に，Fukaya (1988)などがある．そこでは，ハンガリー語の文を解釈するにφ動詞接頭辞[3]，および φ繋辞 (φ-kopula)を導入することにより，同語文における情報構造的な意味の違いを区別できると主張する．

ハンガリー語の文は原則として次の構造をもつ. 右肩の*はそれが何度くり返されても良いことを示す（深谷，1982）.



[3] 原典（深谷志寿・深谷ベルタ 1982 『昭和 57 年度言語研修 ハンガリー語テキスト 2 ハンガリー語 II 』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）では「接動詞」．以下，これを「動詞接頭辞」と表記する．

ここで評言核とは動詞（繫辞・φ繫辞を含む），主評言は焦点（フォーカス）を指す．［φ動詞接頭辞をϕ_{ik}，φ繫辞をϕ_{kp}と表示することにする．］

以下の例では，二重下線が主題（トピック），一重下線が焦点（フォーカス）である．

（ロ） a.

A lány	*meg-csókol-t-a*	*a*	*fiú-t.*	
the 少女	PRV［完了］-キスする-PST-DEF.3SG	the	少年-ACC	

「娘は少年に口付けをした．」

b.

A fiú-t	*a lány*	*csókol-t-a*	*meg.*	
the 少年-ACC	the 少女	キスする-PST.DEF.3SG	PRV［完了］	

「少年は娘が口付けをした．」

c.

A lány	*a fiú-t*	*csókol-t-a*	*meg.*	
the 少女	the 少年-ACC	キスする-PST-DEF.3SG	PRV［完了］	

「娘は少年に口付けをしたのだ．」

また以下の例 （ハ）と（ニ）とを比較することによって，同音異義文，Sándor az apám の二通りの解釈が説明できる．

（ハ） a.

Sándor	*az apá-m*	*vol-t*	ϕ_{ik}.	
シャーンドル	the 父-POSS.1SG	BE-PST.3SG	(PRV)	

「シャーンドルは父でした．」

b.

Sándor	*vol-t*	ϕ_{ik}	*az*	*apá-m.*
シャーンドル	BE-PST.3SG	(PRV)	the	父-POSS.1SG

「シャーンドルが父でした．」

（ニ） a.

Sándor	*az apá-m*	ϕ_{kp}	ϕ_{ik}.
シャーンドル	the 父-POSS.1SG	(BE)	(PRV)

「シャーンドルは父です．」

b.

Sándor	ϕ_{kp}	ϕ_{ik}	*az*	*apá-m.*
シャーンドル	(BE)	(PRV)	the	父-POSS.1SG

「シャーンドルが父です．」

3. 調査結果

(1) （昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で）

「えっ，ヤーノシュが来たの？」

「いや，ヤーノシュじゃなくて，タマーシュが来たんだ」

„Tényleg	*JÁNOS*		*jö-tt*	*el?”*
本当に	ヤーノシュ		来る-PST.3SG	PRV（離れて）
„Nem,	*nem*	*János,*	*hanem*	*Tamás.”*
いいえ	NEG	ヤーノシュ	ではなく	タマーシュ[4]

ハンガリー語の語順では，焦点要素[5]は動詞直前の位置を占めなければならないという規則のとおり，この例における焦点要素 János「ヤーノシュ」を動詞の直前に配置させる．この場合，動詞は el-jön「（家から離れて）出かける」という el-「〜から離れて」という動詞接頭辞が付いた動詞（以下，「接頭辞付き動詞」と呼ぶ）であるため，動詞接頭辞は動詞本体（以下，「基動詞」と呼ぶ）から分離・後置することになる．

(2) 「誰が来た（の）？」　　「ヤーノシュが来たよ」

„KI	*jö-tt?”*	*„János.”*
誰が	来る-PST.3SG	ヤーノシュ

疑問詞 ki「誰が」も焦点要素となるため，必ず動詞の直前を占める．

(3) （ヤーノシュとタマーシュの背について話している状況で）

「ヤーノシュの方が大きいんじゃないの？」

「いや，ヤーノシュじゃなくて，タマーシュの方が大きいんだよ」

„János	*magas-abb*		*Tamás-nál,*	*ugye?”*	
ヤーノシュ	高い-COMPR		タマーシュ-ADE	ですよね？	
„Nem,	*nem*	*János,*	*hanem*	*Tamás*	*magas-abb.”*
いいえ	NEG	ヤーノシュ	ではなく	タマーシュ	高い-COMPR

---

[4] グロスに使用する略号は基本的に Leipzig Grossing Rules (https://www.eva.mpg.de/lingua/pdf/LGR08.02.05.pdf) に従った．その中に記載のないものは以下．ADE : adessive「接格」，ALL : allative「向格」，COMPR : comparative「比較級」，DEF : definitive conjugation「定活用」，ILL : illative「入格」，INE : inessive「内格」，PRV : preverb「動詞接頭辞」，SUP : superlative「上格」，SUB : sublative「着格」

[5] 例文では焦点要素 (Focus)はスモールキャピタルで示した．

ハンガリー語の比較級は形容詞に -abb/-ebb を付け，比較する対象を接格 -nál/-nél で示す[6]．なお，叙述文「A は〜である」における 3 人称（現在時制のみ）ではコピュラは示されない（János magas.「ヤーノシュは背が高い」）[7]．そして，例文にあるように「〜でなく，…である」は，„nem 〜, hanem …”のように表現する．

(4) （電話で）「どうした（の）？」「うん，今，お客さんが来たんだ」

„Mi	*van*	*vel-ed?”*		
何が	BE	INST-2SG		
„Na,	*most*	*egy*	*vendég*	*jö-tt.”*
ええ	今	a	お客	来る-PST.3SG

焦点要素と同じく，この例文における新情報である「お客さん (egy vendég)」は，ふつう動詞の直前に配置される．

(5) 「あの子供がヤーノシュを叩いたんだって？」

「いや，ヤーノシュじゃなくて，タマーシュを叩いたんだよ」

„JÁNOS-T	*üt-ött-e*	*meg*	*az*	*a*	*gyerek?”*
ヤーノシュ-ACC	たたく-PST-DEF.3SG	PRV［完了］	that	the	子供

„Nem,	*nem*	*János-t,*	*hanem*	*Tamás-t.”*
いや	NEG	ヤーノシュ-ACC	ではなく	タマーシュ-ACC

この例文では，目的語「ヤーノシュを」が対比焦点であるため，必ず動詞の直前の位置を占めなければならない．そのため，接頭辞つき動詞 meg-üt「たたく」の接頭辞 meg- は基動詞の直後に配置されている．

(6) 「赤い袋と青い袋があるけど，どっちを買う（の）？」

「（私は）青い袋を買うよ」

---

[6] なお，ハンガリー語は母音調和という現象のため，それぞれの母音のグループ（後舌母音 (u, o, a)／前舌母音 (i, e)／円唇母音 (ü, ö)）に応じた異形態を持つ．この比較級マーカーでは，後舌母音系には -abb が，前舌および円唇母音系には -ebb が付くことを意味する．同様に，接格では，後舌母音系には -nál が，前舌および円唇母音系には -nél が付く．

[7] 2 節の例文（ニ）にある ϕ 繋辞の説明も参照のこと．

„Piros	*táska*	*is,*	*kék*	*táska*	*is*	*van,*
赤い	かばん（袋）	も	青い	かばん（袋）	も	BE
MELYIK-ET	*vesz-ed?”*					
どれ-ACC	買う-DEF.2SG					
„(Én	*pedig)*	*A*	*kék-et.”*			
（私	は一方で）	the	青い-ACC			

疑問詞 melyik「どちら」の対格形 melyiket「どちらを」が焦点要素である．なお，melyiket はすでに選択するモノが既知であるから定まった目的語となり，動詞 vesz「買う」はこのように定活用となる．

(7) （例えば，朝少し遅く起きて来たヤーノシュの父親が，姿の見えないヤーノシュについて母親に尋ねている場面で）

「ヤーノシュはどうした？」

「ヤーノシュは朝からどっかへでかけたよ」

„Hol	*van*	*János?”*	
どこに	BE	ヤーノシュ	
„Már	*reggel*	*valahova*	*el-men-t.”*
すでに	朝	どこかへ	PRV（離れて）-行く-PST.3SG

「どうした？」に対応する述語焦点の文であるので，その答えでは述語以外のものに焦点をあてる必要がない．その証拠に，動詞は el-ment と接頭辞 el- は動詞から分離せず，動詞直前の位置（＝焦点）のままである．

(8) 「（あの子供は）誰を叩いたの？」

「（あの子供は）自分の弟を叩いたんだ」

„(Az	*a*	*gyerek)*	*KI-T*	*üt-ött*	*meg?”*
that	the	子供	誰-ACC	たたく-PST	PRV［完了］
„A saját	*öccsé-t.”*				
the 自身の	弟-ACC				

疑問詞 ki「誰」に対格語尾が付いた kit「誰を」だが，すでに述べたとおり，疑問詞は焦点

要素であるため，かならず動詞直前の位置を占める．そのため，接頭辞 meg- が動詞直後の位置に移動させられる．

(9) ［電話で］「どうした（の）？」

「うん，ヤーノシュが（自分の）弟を叩いたんだ」

„Mi	*történ-t?”*				
何	起こる-PST.3SG				
„Igen,	*János*	*meg-üt-ött-e*	*a*	*saját*	*öccsé-t.”*
はい	ヤーノシュ	PRV［完了］-たたく-PST.DEF.3SG	the	自身の	弟-ACC

(10) 「あのケーキ，どうした？」

「ああ，（あれは）ヤーノシュが食べちゃったよ」

„Mi	*van*	*az-zal*	*a*	*sütemén-nyel?”*
何	BE	that-INST	the	ケーキ-INST
„Ja,	*János*		*meg-e-tt-e.”*	
ああ	ヤーノシュ		PRV［完了］-食べる-PST-DEF.3SG	

上例 (9)，(10)とも例 (7)と同様，「どうした？」に対応する文焦点の例であるため，接頭辞 meg- は動詞から離れず，付加されたまま動詞直前の位置（＝焦点）を占める．

(11) 「私が昨日お店から買って来たのはこの本だ」

Ez	*a*	*könyv,*	*ami-t*	*tegnap*	*ab-ban*	*a*	*bolt-ban*	*ve-tt-em.*
this	the	本	REL-ACC	昨日	that-INE	the	店-INE	買う-PST.1SG

(12) 「あの人は先生だ．この学校でもう 3 年働いている」

Az	*az*	*ember*	*tanár.*	*Már*	*3*	*év-e*	*dolgoz-ik*
that	the	人	先生	すでに	3	年-POSS.3SG[8]	働く-3SG

[8] 「3 年（間）」という，期間を表す場合，ハンガリー語では“時”を表す語彙を所有形にして表すことが一般的である．この場合，év「年」の所有形（3 人称単数）にした，éve で「～年（間）」「～年前から」となる（なぜ所有形でこの意味が得られるのかは不明）．

eb-ben	*az*	*iskolá-ban.*
this-INE	the	学校-INE

ハンガリー語では動詞の活用により主語人称が表わされるので，ふつう人称代名詞は表示されない．

(13) 「彼のお父さんは，あの人」

Az	*ő*	*ap-ja*	*az*	*az*	*ember.*
the	彼	父-POSS.3SG	that	the	人

(14) 「あの人が彼のお父さんだ」

Az	*az*	*ember*	*az*	*ő*	*ap-ja.*
that	the	人	the	彼	父-POSS.3SG

例 (13), (14)とも，仮に人称代名詞 ő「彼（女）」がなくとも，ap-ja「父-3 人称所有」で「彼（女）の」が意味されるが，この場合，「彼の」を明示するために ő が必要であると思われる．

(15) 「あさってっていうのはね，あしたの次の日のことだよ」

A	*holnapután*	*az,*	*ami*	*követ-i*	*a*	*holnap-ot.*
the	あさって	that	REL	続く-DEF.3SG	the	あした-ACC

直訳すると，「明後日はそれ，すなわち明日に続くもの」となる．

(16) ［何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて］「私はコーヒーだ」

„Kávé-t	*kér-ek!”*
コーヒーACC	お願いする-1SG

「私はコーヒーをお願いする」という表現で言うのが一般的である．日本語のウナギ文のように *Én kávé vagyok.「私はコーヒーです」とは言えない（én「私」，vagyok「〜です（1 人称単数のコピュラ）」）．

(17) ［注文した数人分のお茶が運ばれてきて「どなたがコーヒーですか？」の問いに］
「コーヒーは私だ」

„A	*kávé*	*az*	*enyém!”* [9]
the	コーヒー	the	私のもの

(18) 「その新しくて厚い本は（値段が）高い」

„Az	az	új	vastag	könyv	drága.”
that	the	新しい	厚い	本	（値段が）高い

「新しくて厚い」は，その語順のまま形容詞 új「新しい」と vastag「厚い」を並べればよい．なお，例 (3)でも説明したとおり，この例も「A は〜である」といった叙述文であり，現在時制で 3 人称が主語であるため，コピュラは必要ない．

(19) ［砂糖の入れ物を開けて］「あっ，砂糖がなくなっているよ！」

„Hoppá,	*el-fogy-ott*	*a*	*cukor!”*
おっと！	PRV［完了］-なくなる-PST.3SG	the	砂糖

突然のこと，発見という意味で間投詞 hoppá「おっと」が使われている．動詞は el-fogy「使いはたす，なくなってしまう」で，fogy「減る，少なくなる」に接頭辞 el- が付くことで完了の意味が付加される．同時に，現存の状況の確認の意味もあり，それが発見に繋がると思われる．

(20) 「午後，誰かに会うはずだったなあ．誰だったっけ．あ，そうだ！田中くんだったな」

„Ma	*délután*	*találkoz-t-am*	*volna*	*valaki-vel.*
今日	午後	会う-PST-1SG	COND	誰か-INST

---

[9] この(17)の例だが，Fukaya (1988:43)（または，深谷 (1986:106)）では，同様の状況で以下のように，すなわち，“（逆）ウナギ文”で答えられるとある（Fukaya (1988)ではハンガリー人 Réz Ádám に私信にて確認したとある）：

(i) a. *„A* *kávé?”*
the コーヒー
「コーヒーは？」

b. *„Én* *vagyok* *a* *kávé!”*
私 BE.1SG the コーヒー
「コーヒーは私です」

しかし，当調査におけるコンサルタントに確認したところ，「言えないことはないが，とても奇妙な感じがする」ということで，彼女はこうした表現は使わないとのことであった．

Ki-vel	*is?*	*Jaj,*	*Tanaká-val,*	*az-t*	*hisz-em.”*
誰-INST	も	ああ	田中-INST	that-ACC	思う-DEF.1SG

直訳すると,「今日の午後, 私は誰かと会っていたはずだったのに（実際には会わなかった）. いったい誰だったのか？ ああ（しまった）, 田中くんとだ, 私が思うに」である.「会うはずだったなあ」という思い出しは仮定法過去で表現されている[10].

参考文献

深谷志寿・深谷ベルタ (1982) 『昭和 57 年度言語研修 ハンガリー語テキスト 2 ハンガリー語 II 』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

深谷志寿 (1986) 「ハンガリー語のすすめ③」『月刊 言語』vol. 15, No. 7, 大修館書店.

Fukaya, Shitoshi. (1988) A functional analysis of topic-comment structure of Hungarian-contrasted with Japanese, In Hidasi, Judit (ed) *Contrastive Studies Hungarian-Japanese*, Akadémiai kiadó, Budapest.

Kenesei, István, Robert M. Vago, and Anna Fenyvesi. (1998) *Hungarian: Descriptive Grammars*, Routledge.

É. Kiss, Katalin. (1981a) Structural relations in Hungarian, a “Free” word order language, *Linguistic Inquiry 12*, 185-239.

É. Kiss, Katalin. (1981b) Topic and focus: the operations of the Hungarian sentence, *Folia Linguistica 15*, 305-330.

É. Kiss, Katalin. (2002) *The Syntax of Hungarian*, Cambridge University Press.

大島 一 (2015)「（連用修飾的）複文：ハンガリー語」『語学研究所論集』第 20 号, 東京外国語大学語学研究所.

[10] ハンガリー語の仮定法過去は, 直説法の過去形の直後に volna を置く. találkoztam「私は会った」＋ volna（コピュラ動詞 van「ある」の仮定法 3 人称単数形）となる. 詳しくは, 大島 (2015:138)を参照.